

小平図書館友の会 会報 36号



発行日 2016年5月15日
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>

もくじ

ハンディキャップサービス交流会 報告	1
大森真貴乃さんの絵本作品	2
最近読んだ あんな本・こんな本	4
9月講演会予告/入会案内	5
第18回チャリティ古本市 報告	6
学習会報告	7
声に出して本を読む会/読書サークル・小平 図書館について学ぶ会/YAを楽しむ会	
図書館協議会報告/6月講演会予告	8



ハンディキャップサービス交流会
2016/3/16

加速する小平市立図書館のハンディキャップサービス！

～第17回 ハンディキャップサービス交流会 報告～

3月16日(水)、小平市中央図書館視聴覚室でハンディキャップサービス交流会が行われました。図書館の方5名をはじめとして、社協ボランティアセンター、「小平市点字サークルけやき」、「点字の会てんとう虫」、「点訳サークルかりん」、「布の遊具ひまわり」の各ボランティア団体の方々、図書館宅配ボランティア、図書館友の会7名と一般の方々が集まり、あわせて31名の参加となりました。今年から名称が「障がい者サービス交流会」から「ハンディキャップサービス交流会」に改められました。この交流会を障がい者だけでなく図書館利用にハンディキャップを感じる人びと、例えば来館困難者や外国の方等にも広げていこうという意図によるものだそうです。

*

小平市立図書館はこの5年で障がい者に対するサービスが著しく充実してきましたが、27年度は更にその流れを進めてきたことが報告されました。まず、国立国会図書館の「視覚障害者等用データの収集および送信サービス」に加盟したことです。これにより、国会図書館が製作した学術文献録音図書音声データをCD化したものを小平市立図書館から借りることができるようになりました。また、国会図書館では公共図書館が作成した音声データ、点字データの収集を行っているので、小平市立図書館が作成した音声、点字データを提供することによって他の地域の方にも利用してもらえるようになりました。次に、来館困難者のための宅配貸出サービスを開始したことです。今年度の利用登録者はまだ1名ですが、宅配ボランティアを募集したところ20名の方が集まりました。

そして、ディスレクシア（識字障がい者）のためのマルチメディアデジキッズ図書 61 作品を伊藤忠記念財団の電子図書普及事業の一環として寄贈してもらいました。これにより、ディスレクシアの子どもたちが図書館の本を利用できるようになりました。

図書館からの今年度の実績報告の後に質疑応答が行われました。図書館友の会からは、宅配貸出サービスの利用条件を要介護3以上としていることについて、その理由と、緩和していく予定があるか質問しました。回答は、来館できない客観的基準として65歳以上、要介護3以上にしましたが、今後の利用状況の推移を見て、条件については検討していくということでした。そして、もっと利用が増える努力をしていきたいとのことでした。また、所沢市から参加した方が、所沢市の対面朗読ボランティアに応募しようとしたが、研修が多く断念したという話が出ました。図書館の方の話では、小平市でも音訳ボランティアの研修を初めてから3年経ちますが今も研修を続行中だそうです。音訳はただ読めればよいのではなく、図や表も含めた読み違いのない正確な説明を求められるそうです。文学、医療、外国語等幅広い知識が必要となり、研修には時間がかかるそうです。その説明を聞いて、すでに音訳のボランティアをされている方々の有難さを深く感じました。この交流会を通して、これまで図書館を利用されたことのある方にはより一層、また、利用した事のない方には、知っていただくきっかけとなればと考えています。そして、小平市立図書館を利用する方が、ひとりでも増えればと考えています。

ぜひお近くの図書館にお出かけください。

(小畑淳子)



* 小平市立図書館の宅配貸出サービス

小平市立図書館「ハンディキャップサービスごあんない」より

<https://library.kodaira.ed.jp/service/handicap.html>

図書館に来館できない方に、図書館の本等をご自宅に宅配・回収いたします。

対象：市内在住、65歳以上で要介護3以上の方

宅配・回収日：毎月第2木曜日

午前10時から12時、午後1時から3時の間で利用者の都合のよい時間

貸出：図書・雑誌10冊以内、CD・カセットテープは8点以内（ただしCDは3点以内）

期間：貸出した月の翌月の宅配日まで

登録：図書館利用者登録（利用カード）のほかに、宅配貸出サービス利用者登録が必要です

受付：市内全図書館（分室は除く）のカウンターへ（代理の方も可）

または電話・FAX・郵送でお申し込み下さい

大森真貴乃さんの絵本作品

あたたかくどこかなつかしい色使いで何気ない日常を描かれた大森真貴乃さんの絵本。夫で、友の会の「読書サークル・小平」を主宰されている大森輝久さんに思い出を語っていただきました。

大森真貴乃の絵本作品と小平との関係から書いて行きます。

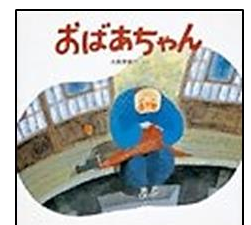
*

ある日、「絵本が描きたい。出版社巡りをする必要があるのでは東京に住みたい」と言い出しました。すでに「第7回クレヨンハウス絵本大賞最優秀作品賞」を受賞していました。しかし大賞ではなかったからか、「絵本」にはなりません。クレヨンハウスはなかなか「大賞」を出さないところで、その時も「大賞」はなしでした。当時は松山市の隣の北条市

の中学校で美術教師をしていました。しかし学生時代から絵本を書きたくて練習してきたとのこと。

そして単身上京しました。住まいは花小金井駅北口の小さなアパートの2階です。ひたすら籠って絵を描いたようです。

先に受賞の連絡があったのは『おばあちゃん』（絵・作）です。第8回「日本の絵本賞」絵本にっぽん新人賞受賞です。絵本は「ほるぷ出版」から1987年に刊行さ



れました。祖母の思い出を書いたものです。

好評で書評が何本か出ました。今でも〈絵本に描かれた死〉として評価があるようです。

*

さて、3冊目は『ともだち』です。当時評判だった出版社「リブロポート」が設けた「第1回絵本賞」の受賞です。編集者がとてもいい人でその時住んでいた高松まで足を運んでくれました。本人はこの受賞を一番喜んでいました。当時若い物書きは「リブロポート」から本を出すことを目指すくらい有名な人文・社会系の出版社でした。



三作とも相次いで新人賞等をもたらしたので、編集者が推してくれたのですが、当時イギリスの絵本研究雑誌が「日本の100人の絵本作家」という特集を組み、その中に入っていて英文の原稿案が届いたこともありました。(何らかの事情で出版とならなかったようです。)

*

その後、私が筑波大学図書館に異動となり、筑波の桜、新緑、樹木を楽しみました。

このころ、小さな花、葉っぱをよくスケッチしていました。私が転勤族となることが決まり、東京での拠点探しをしました。「花小金井」の物件を紹介してくれた業者がいて、「花小金井」にやってきました。妻が「ここは、今は冬で樹は枯れているけど、春になると桜街道ができるぐらい桜がきれいなそう」と教えてくれました。

*

入院していました最後の春にも「桜が咲くころには退院できるかな」と言っていました。

退院でき、私が車椅子を押して散歩しました。

入院する前は、奥多摩に行って次作のために小さい駅舎をスケッチしていました。最後の個展は我が家の猫を描いた「猫の12か月」というエッチングでした。享年51。51年と11か月の「大人の鑑賞にたえる絵本」を目指し、描いた人生でした。

(他の絵本情報は、ホームページを参照ください)
(大森輝久)



大森真貴乃 作・絵 『ともだち』より

大森真貴乃 (おおもり・まきの) さん
プロフィール ~大森真貴乃ウェブサイトより~

大森真貴乃ウェブサイト <http://makinok.com/>

香川県に生まれる

武蔵野美術大学油絵学科 卒業

【創作絵本】

1985年『どろぼうとおまわりさん』(未刊)

(第7回クレヨンハウス絵本大賞最優秀作品賞受賞)

1987年『おばあちゃん』(ほるぷ出版) 作・絵

(第8回「日本の絵本賞」絵本にっぽん新人賞受賞)

1989年『ともだち』(リブロポート) 作・絵

1997年『はいけいさとるくん』

(ベネッセコーポレーション) 作・絵

【その他の絵本】

1992年『ひめだるまのうめこちゃん』

奥山ゆかり/作 大森真貴乃/絵

(新日本出版社)

1993年『おばあちゃんのはこ』

(上野瞭/作 大森真貴乃/絵)

(「音楽広場」とじこみ絵本 おはなし広場」

6月号 クレヨンハウス)

1995年『おばあちゃんとチドリさん』(作/絵)

(「チャレンジ 2年生 おはなしクラブ」

8月号 ベネッセコーポレーション)

1997年『ききみみずきん』日本民話(絵)

(「こどものくに」12月号 鈴木出版)

1999年『おばあちゃんの手』(作/絵)

(「チャレンジ 2年生 おはなし大好き!」

9月号 ベネッセコーポレーション)

2001年『てくてく てくてく』(作/絵)

(「おはなしひかりのくに」7月号 ひかりのくに)

その他、さし絵、民話など

【個展・グループ展】

1990年 宮武画廊(香川県高松市)で

《普段着のポートレート》展



大森真貴乃さんの絵本 表紙

(書影「Amazon.co.jp: 大森真貴乃: 本」より)

読書特集

最近読んだ あんな本・こんな本

「はじめてのやさしい短歌のつくりかた」
横山未来子（日本文芸社）

なかまちテラス開館一周年記念ワークショップの「短歌であそぼう」に参加して、その時に職員の方が用意して下さった関連図書を2冊借りました。その中の1冊、日本文芸社の「はじめてのやさしい短歌のつくりかた」がとても気に入りました。小動物と草や木の実の絵がとてもかわいいクリーム色の表紙の本です。作者の横山未来子さんの繊細な感性がやさしい口調で伝わってきます。

まずは名歌を味わうことから始まり、短歌づくりの基本、自分らしい短歌を詠むためのコツ、いろいろなテーマがあること、添削の例などがのっています。古典から現代までの数多くの名歌を紹介していてわかりやすい解説もついているのがよかったです。



漠然と感じていることを三十一文字の詩にすることは、自分の心と向き合いそれを言葉で表現するとても楽しい作業でした。勉強方法も通信教育などもあることを知り、私も続けられたらなと思いました。

「とことこと小石蹴とばしボコボコな木の根踏みつつ上水緑道」私もさっそく大好きな上水緑道の短歌を作ってみましたので書かせていただきました。
(ペンネーム 水連さん)

「おおきなかぶ」 (福音館書店)

地域で子ども文庫を初めて44年、子ども達に毎回手渡したい本は沢山ありますが、当初から私の大好きな本として、この本を挙げます。ロシアの昔話「おおきなかぶ」です。

昔話は人びとの間で育まれた伝承文芸といわれていますが、福音館での初出は1962年、版を重ねて(2006年まで)210万部ときいています。



再話者の内田莉莎子さんの「うんとこしょ、どっこいしょ」のかけ声は、佐藤忠良さんの絵とぴったり合って、この絵本をいきいきさせています。次々に呼び集められたおばあさん、孫娘、犬、猫、ねずみ達は佐藤さんの絵の中でかけ声をかけ合い、力いっぱい役目を果たしています。

文庫の子ども達と一緒にかけ声をかけながら、大きなかぶを抜き終えたときの満足感といったら…。力が入って汗を拭いたくなる私です。

(今井美代子さん)

「注文の多い料理店」宮沢賢治
「夜の橋」から『梅薫る』 藤沢周平
(中央公論社)

宮沢賢治の資料の中にある「注文の多い料理店」を手にした時、正直驚いた。野や山を友とする、自然、宗教、そして貧しい東北農民を眼前にみる、それぞれの体験を表現したものばかり書く人だと思っていた。そしてそれを読み感動したという先入観からか？当時ナイフとフォーク、それに十円分だけ山鳥を買って帰るというくだり…。当時相当な金額と思うし、文章も奇々怪々であるが、37才という若さでこの世を去り、これを書いた時はどんな生活、心境であったのかと、私の中ですっきりと入ってこない理由の一つでもある。



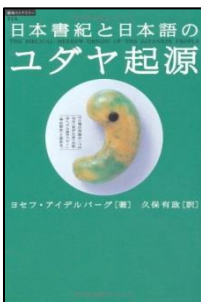
同時期に藤沢周平の「梅薫る」を手にした。「生きるという事が時には、耐えるという事と同じ意味だ」と娘に話そうとする父。娘に渡そうと折った梅の枝は激しく匂い、ゆっくりと歩いていく父を包んだ。美しい文章とさりげない表現に感動！

(ペンネーム 都忘れさん)

「日本書紀と日本語のユダヤ起源」
ヨセフ・アイデルバーグ
(超知ライブラリー)

難しい政治諸課題の解答を得るために、最近、私は「迷ったときは、ルーツ(起源)に戻って考えよう！」と思い、大和民族・神社神道等の日本固有の歴史的起源について調べてきました。神話等を調べていく内に出会ったのがこの本です。

日本民族の祖先にユダヤ民族が深く関係しているという説は、以前から耳にしていましたし、知人のコーヘン前駐日イスラエル大使からも様々に聞かされてきました。元イスラエル軍人だった著者は、「イスラエルの失われた十部族」の東征に関心を持ち、語学の才能（7カ国語を話す）をフルに発揮して、京都の護国神社の見習い神官にもなって、「ユダヤ人と日本人の伝説的共通関係」を明らかにしています。精選された500語に及ぶ古代ヘブライ語と日本語の共通点を具体的に示しており、あなたにとって歴史常識を覆す驚愕の一書となるでしょう！

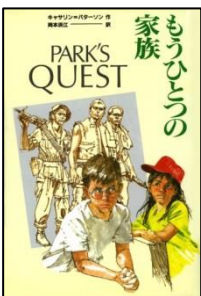


(末松義規さん)

「もうひとつの家族」

キャサリン=パターソン (偕成社)

主人公のパークは、写真でしか父親を知らない。パークの父親はベトナム戦争で亡くなっていた。11才になって無性に父親の事を知りたくなったパークは、母親を何度も説得し、ついに父親の実家に訪ねて行ってよいかという手紙を書いてもらう。待ちに待った「イエス」の返事にパークは一人で長距離バスに乗って祖父に会いに向かう。本好きのパークは、読んだ本の一節が自分の感情のように口に出てきてしまう。『アーサー王物語』の会話がパークの葛藤と重なり随所に出てきて、とまどうパークの背中をおす。最終の場面で、パークが見つけたのは、確かに自分に流れる血を分けあった家族であった。そしてそれは長い旅路のすえに見つけた聖杯をささげ持つアーサー王と重なった。



少年の熱い想いは決行された。
パーク少年バンザイ！

(杉山登志枝さん)

「相手の気持ちをきちんと<聞く>技術」

平木典子 (PHP 研究所)

平成25年3月に、長年住み慣れた大阪を離れ、高齢の両親と同居するために小平に引っ越して来ました。友人や知人の全くいない小平で、地域コミュニティの一員として生活できるようにと思い、ある介

護施設でボランティアを始めました。その施設で、「傾聴」に関するセミナーを計18時間にわたって受講し、その時の教本がご紹介する本です。

「傾聴」という技術は、一般社会ではコミュニケーションが上手になるのに役立ちますが、医療や介護の世界では心に痛みを持っている人々の話を聴いて癒しの助けになろうとするものです。この本では、傾聴とは何か、傾聴に必要な心構えは何か、傾聴の実践方法はどんなものか、について6章にわたり解説されています。

傾聴するとき最も大事なことは、自分と相手とは「枠組み」(価値観など)が違うことを前提に、「積極的な関心」と「共感」を持って、「話を聴いていること」、「理解していること」をはっきり相手に伝えながら、聴くことです。私自身は、この本を読み、セミナーで学び、まだまだ未熟ですが、家庭においても学んだ技術を生かして家族間の関係改善にも役立っています。(高木 勉さん)



2016年9月 講演会予告

日時 9月11日(日) 13時半～15時半
会場 小平市中央図書館 3階視聴覚室
講師 平木靖成さん
(岩波書店 辞典編集部)



広辞苑等の辞典編集について
ご苦心、辞典編集への思いなどをお話いただく予定です
詳細は6月頃チラシでお知らせします

小平図書館友の会に入会しませんか？

講演を聴いたり 文学散歩に行ったり
読書仲間を作ったり・・・

小平図書館友の会は、図書館利用者の会です。

1998年設立 現在の会員数約130名

だれでも、いつでも入会できます！

【年会費】 大人:1,000円 大学・高校生:500円
中学・小学生:300円

チャリティ古本市報告

3月26日、27日の二日間、第18回チャリティ古本市が開かれました。集本数約1万3千冊、昨年の残本と合わせて約2万冊が会場である小平市中央公民館ギャラリーに並べられました。小平市内外から二日間で千人を超える大勢の方々がこの古本市を楽しんでくださいました。収益金(約24万6千円)は小平市の図書館に物品の形で寄贈し、また東日本大震災被災地の図書館復興のためにも寄付金を送ります。本を寄付してくださった方々、買ってくださった方々に深く感謝いたします。

チャリティ古本市あれこれ

いつから…

第1回開催は1999年でした。中央図書館の前庭で一日だけ行われました。ポスターはかわいい手書きのイラストでした。第3回までは前庭で行われていましたが天候を気にしなければならないこと、毎年5月末でしたので晴れた場合は暑さ対策が必要なことなどを考慮して第4回から公民館ギャラリーに場所を移し会期も二日間となりました。



第2回 青空チャリティ古本市
2000/5/28

*

開催日…

第10回までは5月末の開催でした。暑さ対策のために第11回は4月となり開催月を早めることになりました。

想定外の出来事も・・・

第13回は4月に予定したものの都知事選と重なってしまい7月にずれ込みました。3月の東日本大震災の影響もあり寄付本がとて多く3万冊の本を所狭しと並べることになりました。春の開催でさえ熱気であふれる会場は蒸し風呂状態で、お手伝いの会員はあちこちで団扇を煽ぎながら来場者を気遣っていました。

第14回からは引越しシーズンを当て込んで? 3月開催とし、今に至っています。

進化…

18回目ともなるとお手伝いの会員さんたちも手順を覚え、要領よく準備は進みます。しかし怖いのはマンネリ化。毎年3~4か月前から行われる古本市世話人会では前回の反省をもとに改善すべき点を話し合います。買い物かごの導入、壁面の利用、転売目的の業者対策などなどです。今回は初日開場前に入場整理券を配布し公民館に迷惑をかけぬよう配慮しました。

*

掲示物…

ここ5、6年で掲示物が増えました。以前は本の種類別の表示と価格表示、古本市開催趣旨、それと転売を目的とした業者へのお願いでした。最近はこちらに加え、本を寄付してくれた方に渡す3冊無料券の使用方法、お買い上げいただいた後の返本のお断り、今回からは会場内でのスマホ、タブレットの使用禁止も貼りました。会を重ねるごとにいろいろ状況も変わっていくということです。

*

古本市人気の秘密…

毎年本当にたくさんの方々が来場され、たくさん本を買って下さいます。人気の秘密は为什么呢? もちろん他では考えられない安価なことも一つです。会場内の本の約9割が30円、50円です。特別価格のものでさえほとんどが100円~300円の世界です。人気の秘密はもう一つ、それは書店に並んでいない本(今はもう買うことができない本)がたくさんあることです。

「本が好き」「本があれば幸せ」と掘り出し物の本を見つけて大事そうに抱えて帰る人。持参の袋いっぱいの本を頑張っって持ち帰る人。主催者として疲れが吹き飛ぶ光景です。



今年の第18回チャリティ古本市

*

課題…

なんといっても会員の高齢化です。本は重いのです! 準備初日と片付けの両日の労働は重労働です。毎年市内にある大学などにボランティア募集のポスターを貼りますが応募は少なく、今年はどうとうゼロでした。

読書好きでしかも体育会系の若者どこかにいませんか?
(剣持香世)

学習会報告

声に出して本を読む会

昨年11月20日(土)、21日(日)の2日間、武蔵小金井のブルーメンハウスで、第11回朗読会「ことばの玉手箱」をいたしました。各回とも大勢のお客様にお越しいただき、一同、感謝しております。

次回は11月に予定している発表会に向け企画・演習中です。ご期待ください。(雑崎亮平)

読書サークル・小平

「読書サークル・小平」は原則として隔月(奇数月)開催。最近では二か月に一度読書会をしています。

最近一緒に読んだ本は次の通りです。

■第31回 2015年11月15日(日)

テキスト 上杉隆 (PHP新書)

『新聞・テレビはなぜ平気で「ウソ」をつくのか』

最近「新聞・テレビ」のミス・リードが目立ちます。判断ミスのみならず「ウソ」もあるのか。ウソの源流は日本にだけにあり特異な「記者クラブ」にありと批判してきたのが筆者です。それにメディアの「自粛体質」、「ジャーナリストより会社員体質」等。それでも良いメディアを希望します。アメリカでは新聞社の倒産が続き地域情報すら入ってこない社会が到来しています。それがトランプの躍動を許している市民現状となっています。

■第32回 2016年1月17日(日)

テキスト 高橋源一郎×SEALDs

『民主主義ってなんだ?』(河出書房新社)

世界でも珍しいと言われる「デモも学生運動もないおとなしい日本」。原発爆発からデモが再燃しました。そして、疑問の多い安保法案。ついに将来を生きる学生の反応が出て来た。そこで、「民主主義」への問いが適切かどうかを考える必要があります。高橋源一郎さんは40年前の学生時代には直線的「民主主義称賛」を疑問に思い「民主主義(戦後民主主義)打倒」と叫んで逮捕された人です(107ページなど参照)。その人の民主主義観がどのように変わったか。

■第33回 2016年3月13日(日)

テキスト 室井尚 『文系学部解体』(角川新書)

いろいろな問題が生じたとき、保守権力を横暴と批判が集中するのが一般的でした。しかし、自ら自省することなしの権力批判では、なんら問題点が見えてこない時代が到来していると感じさせてくれる本でした。文系教育の怠慢はやはり見直した方がいいな。

総じて見れば、「日本の今後」「後進(若い人)問題」を考えるテキストでした。「今、何を考えておくべきか」の観点からテキストを選定しています。現在では会員の参加が多いですが、一般の方も是非ご参加ください。(大森輝久)

図書館について学ぶ会

1月21日に日野市中央図書館と市政図書室に見学に行きました。日野市の図書館は「市民のための公立図書館」が作られるきっかけとなった図書館です。ごんまりとした中に落ち着いた雰囲気があり、書架の配置や本の種類別配架など、利用者の目線に立った感じがして好感が持てました。2階には開放的なレファレンス室と仕事情報コーナーがありました。市政図書室は日野市役所内にあり、140平米の狭い空間の中に地域資料、行政資料などがぎっしり収集されていました。一日50人位の利用者があり、市民、職員、議員が利用する様々な種類の資料は圧巻でした。

以前から続いている図書館見学を通して、「これからの図書館って?」「図書館ってなんだろう」と話し合い、学習課題としていきます。また昨年からは始まった来館困難な方のための本の宅配サービス(この会報の2ページ目参照)を障がい者サービス学習会のメンバーと共に勉強しています。(剣持香世)

YAを楽しむ会

調べてみると、ヤングアダルト(略してYA)とは14歳から18歳までの利用者を指す、アメリカ図書館協会の用語です、とありました。この「YAを楽しむ会」のメンバーはどこからどうみてもその年齢層の人はいませんが、時にはその頃を振り返り、時には今だからこそ、この気持ちが良く分かる!などと毎回熱く語り合っています。ある人が「この主人公の少年は大人のアドバイスを鵜呑みにせず、ま

ずは自分で信じる方向に進むでしょ、そこがとても偉いと思うの」と感想を述べると、ある人が「それが生きるってことだね、きっと」と青春真っ盛り的高校生のように頷きます。と思えば「私はそうは思わなかった」と全く違った意見を言う人も。一言も発しない人はいないと思います。どんな意見も受け止めてくれるありがたい場です。読後の感想をストレートに伝えてスッキリする。他人の意見を聞いて目が開かれる。たった2時間で頭と体がリフレッシュ。皆帰る時の方が元気に見えるのは、毎回配られる美味しいお菓子によるものだけではないでしょう！月に2冊、一緒にYAを楽しみませんか？
 随時メンバー募集中！ (杉本順子)

— 11月から4月までに読んだ本 —

- 11月『ハロウィーンの魔法』ルーマ・ゴッデン著／借成社 『きみに出会うとき』レベッカ・ステッド著／東京創元社
- 12月『アドリア海の奇跡』ジョアン・M・ジズベルト著／徳間書店 『ヤンネ、ぼくの友だち』パール・ポール著／徳間書店
- 1月『片手いっぱい星』R・シャミ著／岩波書店 『ピーティ』ベン・マイケルセン著／鈴木出版
- 2月『屋上のウインドノーツ』額賀滂著／文藝春秋 『わたしの心のなか』シャロン・ドレイバー著／鈴木出版
- 3月『ラヴジョイの庭』ルーマ・ゴッデン著／借成社 『明日の子供たち』有川浩著／幻冬舎
- 4月『戦火の三匹—ロンドン大脱出』ミーガン・リクス著／徳間書店 『エリザベス女王のお針子—裏切りの麗しきマント—』K・ペニントン著／徳間書店



図書館協議会報告

2015年度下半期には、例年通り11月、1月、3月に協議会が開催されました。毎回主として議論される議題が変わり、忙しいとも集中して議論できたとも言える協議会でした。この議論の中にはこれからの図書館の在り方に波及していくような問題の萌芽が含まれていたのではと個人的に考えています。例として開館時間の問題を取り上げてみます。

上半期からの持ち越し案件に、2015年度試行で効果の出そうな地区館と中央図書館のみで施行してきた図書館開館時間の延長をどのように考えて2016年度本格実施開館時間に移行するかという問題がありました。夏休み中に図書館利用者にアンケートを取り、利用者数の時間帯別人数、貸出資料数の変化を前年度の数値と比較してみました。この数値は微妙な数値で開館時間を延長したから数値が伸びたとも、いや、時間単位では期待したほどではないとも主張可能でした。周囲の市立図書館は開館時間延長の方向にあり、近くに通勤時に使われる駅があり、駅近の図書館は比較的伸びがみられるとして開館時間を延長しました。中央については扱い資料数が多く現行の体制では午前中に資料整理、コンピュータと現物との照合等に追われて、事務上支障をきたしています。歩いて5分の青梅街道駅がありますが、この駅の乗降人員はしれており、時間を延ばしても来館者は期待できないと判断し、中央図書館の開館時間は2014年度実施開館時間に戻しました。

今話題のTSUTAYAでは図書館改革を唱えており、TSUTAYAはどう考えるかを個人的に考えさせられました。(塚本健男)

6月の講演会「小平市史の魅力を探る」

小平市史概要版『小平の歴史』(平成27年1月発行)
 小平市史編さん事業を統括された
 蛭田廣一さんにお話をうかがいます

日時 2016年6月4日(土) 13時半～15時半
 会場 小平市中央図書館 3階視聴覚室
 講師 蛭田廣一さん(小平市立図書館職員
 前小平市企画政策部市史編さん参事)
 定員 80名 入場無料
 主催 小平図書館友の会／後援 小平市教育委員会

＝講師コメント＝

小平市史概要版『小平の歴史』は、本格的な調査研究に裏付けられた3冊の市史本編の概要をまとめたものです。内容としては、地理・考古・民俗・近世史・近現代史について網羅的に収録しています。

今回は、概要版の中から、1.市史編さん事業と概要版の内容構成、2.武蔵野台地と小平の地理、3.享保の新田開発と小平、4.小平村の成立と都市化、5.農耕生活と暮らしという5つのテーマについてお話しします。

2.は小平市周辺の地形と地下水及び新田開発以前の村について、3.は小川村・鈴木新田・大沼田新田の入村者がどこから来たかと開発した土地の特色について、4.は小平村の成立、小学校の開設、日清・日露戦争と出征兵士、小平学園開発について、5.は小平特産の「さつまいも」や「うど」作りと農産物の出荷について紹介します。

とても魅力的な小平の歴史についてお話しします。